

平成9年度

## 教育メディア教材開発「川崎の社会教育施設紹介」

— 学習情報提供サービスのための視聴覚教育メディアソフト —

# 視聴覚教育メディア教材開発「川崎の社会教育施設紹介」

## — 学習情報提供サービスのための視聴覚教育メディアソフト —

教育メディア利用促進研究会議

道坂 秀雄<sup>1</sup>

中村 康人<sup>2</sup>

島田 秀雄<sup>3</sup>

川合 健一<sup>4</sup>

外山 裕一<sup>5</sup> (平成8年度)

夏井 美幸<sup>6</sup>

### 要 約

近年の情報化の進展にはめざましいものがあり、さらに高度情報通信社会の実現に向けて、教育機関等で様々な取り組みがなされている。

教育の面では、学校教育においては個性を生かす教育が求められ、社会教育においては学習ニーズが多様化・高度化するなかで、個人学習の要求が高まり、広範な内容を対象とした多様な学習形態が求められている。生涯学習を支援し、人々の学習意欲と学習機会を結びつける方策の一つとして生涯学習に関する情報の提供があげられる。

生涯学習に関する情報の提供は、市民の要求が多く、職員としての情報においても必要と思われる。そこで、「社会教育施設・事業情報」を、様々なメディア（スライド集・ビデオテープ・CD-ROM）によって紹介する視聴覚教育メディアソフト開発を行った。

今後さらに、通信ネットワークと組み合わせて、双方向性を有するソフトの情報提供をし、生涯学習活動において、学校教育や社会教育におけるメディアの活用を支援することがのぞまれる。

キーワード：教育メディア マルチメディア 学習情報 生涯学習活動 ビデオテープ スライドフィルム

### 目 次

I 主題設定の理由	194	II 研究の内容	195
1. はじめに	194	1. 開発教材制作の内容	195
2. 学習情報提供の現状		2. 活用	196
(1)活字メディアによる情報提供サービス	194	III 研究のまとめと課題	198
(2)視聴覚メディアによる情報提供サービス	194	1. 学習情報提供の課題と展望	198
3. マルチメディアを利用した		おわりに	
学習情報提供の必要性	195	・参考文献・指導助言者	
4. 開発教材制作の方法	195		

<sup>1</sup>川崎市青少年科学館指導係長（社会教育主事）

<sup>2</sup>川崎市幸市民館社会教育振興係主査（社会教育主事）

<sup>3</sup>川崎市生涯学習推進課企画係主任（社会教育主事）

<sup>4</sup>川崎市総合教育センター生涯学習研究室事務職員

<sup>5</sup>川崎市総合教育センター生涯学習研究室事務員 <sup>6</sup>川崎市総合教育センター生涯学習研究室主任（社会教育主事補）

（H8年度研修員）

# I 主題設定の理由

## 1. はじめに

今日の生涯学習社会において、急激な社会の進展と変化に対応できる人間を育成する教育の必要から、自己教育力の育成が強く叫ばれている。

また、高度情報通信社会を生きるために、直接的には、新たな情報・学習メディアを活用する能力が必要となっている。特に、現代のような映像からの情報や映像を提示するメディアからの学習機会が多いことから考えると、これはまさに生涯学習社会からの教育への要請であると言える。

生涯学習の基盤整備において、<sup>1)</sup>「学習者が自ら適切な学習機会を選択し、自主的に学習を進めることができるよう、学習情報を提供することや学習のための相談体制を整備すること」とされており、市民の多様化・高度化する学習ニーズへの対応として学習情報提供は重要な意味がある。

そして、これまでの視聴覚教育は、教育方法の改善や教育内容の充実に大きな役割を果たしてきた。現在、社会教育においては、視聴覚教育メディアを活用して、時間や場所に制約されない学習機会を提供することや個人の学習の支援をすることが求められている。

また、地域における視聴覚教育メディアの促進は、これまで、視聴覚センターを中心に推進され、昭和46年の視聴覚ライブラリー研究会報告「視聴覚ライブラリーのあり方について」や昭和58年の社会教育審議会放送分科会小委員会中間報告「視聴覚ライブラリー及び視聴覚センターの整備充実について」における提言等を踏まえ、施設の整備や機能の充実が図られてきた。

川崎市においても、昭和61年度視聴覚センター機能を含んだ総合教育センターがオープンした。昭和58年「視聴覚ライブラリー及び視聴覚センターの整備充実について」(中間報告)にある6つの役割をもつ視聴覚教育関係施設が誕生したわけである。

- (1) 教材供給センターとしての役割
- (2) 教材制作センターとしての役割
- (3) 情報センターとしての役割
- (4) 研修センターとしての役割
- (5) 研究・開発センターとしての役割
- (6) 学習センターとしての役割

そのなかでも、視聴覚センターの果たす役割は大きくなっている。とりわけ教材供給の充実は重要な課題となっている。

また、教材制作センター機能としては、16ミリ映画フィルム等従来のメディアに加えて、個性的で柔軟な教育・学習方法に対応できる新しい多様な教育メディアであるマルチメディア教材の収集・制作・提供を図り、情報・研究センター機能として、教育メディアに関する情報の収集・提供及び高度情報通信社会に対応する情報提供として、新しい教育メディアの活用等先導的な取り組みが必要とされる。

## 2. 学習情報提供の現状

学習情報提供のメディアには、活字メディア・視聴覚メディアがあげられる。

(1) 活字メディアによる情報提供サービス (川崎市における広報)

- ①かわさき市政だより
- ②市民広報ポスター
- ③市民便利帳「かわさき生活ガイド」
- ④各施設発行の広報誌「○○だより」 など

(2) 視聴覚メディアによる情報提供サービス

- ①ラジオ・テレビ放送番組  
FM K-City, ラジオ日本, テレビ神奈川 など
- ②視聴覚センター・・・視聴覚教材貸出

川崎市では、視聴覚センターが16ミリ映画フィルム(約1,397本)、ビデオテープ(約2,090本)スライドフィルム・レーザーディスク・TPシートなど映像教材を、登録された団体に貸出している。

最近の貸出し状況を見ると、手軽さからビデオテープが著しく伸びている。

ビデオテープの内容は、学校教育における教科等教材、幼児教育から高齢者教育、人権教育、情操教育、平和教育、環境教育など幅広い内容のものを収集している。収集の手段も、市販教材の購入、テレビ神奈川の著作権フリーの放送番組の録画教材、自主制作した地域教材等がある。

- ③生涯学習情報システム・・・コンピュータによる情報提供

川崎市の生涯学習情報システムが、平成4年9月よりスタートした。施設情報、講座、催物情報などを体系化し、社会教育施設に設置した端末機から情報の提供を行っている。

現在市内18ヶ所に端末を置き、市民利用者開放端末は8ヶ所に設置し、タッチパネル形式で市民が自ら検索できる形になっている。

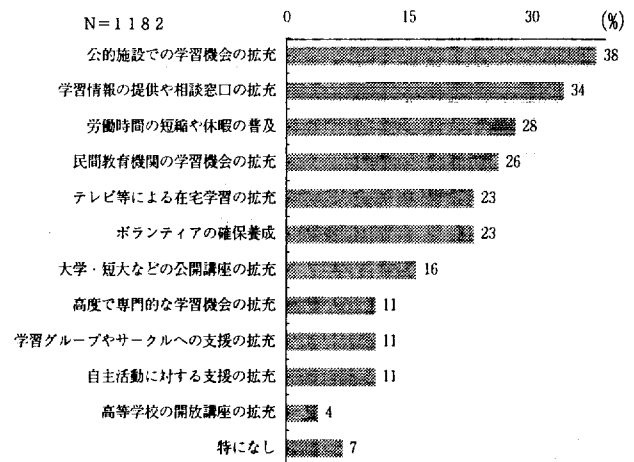
川崎市生涯学習情報システムの情報分類

- ① 施設情報
- ② 見学情報

<sup>1)</sup>中央教育審議会答申、『生涯学習の基盤整備について』平成2年

- ③ 情報源情報 (職員用端末のみ検索可能)
- ④ 講座・催し物情報
- ⑤ 団体・グループ情報
- ⑥ 指導者・人材情報 (職員用端末のみ検索可能)
- ⑦ 教材・機器情報 (職員用端末のみ検索可能)
- ⑧ 資格情報 (職員用端末のみ検索可能)
- ⑨ 学習プログラム情報 (職員用端末のみ検索可能)

図8-10 今後活性化に必要な点



施設情報	20,029 件
見学情報	9,596 件
情報源情報	10 件
講座・催し物情報	14,937 件
団体・グループ情報	5,625 件
指導者・人材情報	205 件
教材・機器情報	32 件
資格情報	31 件
学習プログラム情報	52 件

また、川崎市生涯学習情報システム平成8年度分類別利用統計で見ると、「施設情報」の件数が多く、市民の施設に関する情報の要望が大きいことがうかがえる。

### 3. マルチメディアを利用した学習情報提供の必要性

川崎市の実態について触れてみる。生涯学習の活動に対して今後活性化に必要な点として、平成7年3月「川崎市民意識実態調査報告書」では、「公的施設での学習機会の拡充」が38%とトップ。次いで「学習情報の提供や相談窓口の拡充」が34%、第5位に「テレビ等による在宅学習の拡充」23%となっている。

この実態調査の結果から見て、住民のニーズに応える学習情報提供の必要性は、つぎのとおりと思われる。

- (1) 学習機会の増大・多様化につれて、自らの学習要求に合わせた情報選択。
- (2) 生涯学習関係機関の担当者として、事業の改善・充実のための情報資料収集。
- (3) 学習に参加しにくい人々のための在宅学習等を援助するための教材資料等の情報提供。

(4) 教育機関・行政機関など様々な機関で生涯学習に関連する事業がいろいろと行われており、事業情報を一元化された事業情報の提供。また、一市町村だけの情報のみならず、県や近隣市町村と情報提供のネットワークの整備。

### 4. 開発教材制作の方法

川崎市民の公共施設利用に関して、予約手続きの簡素化・標準化等、充実したサービスが望まれている。そこで、今まで生涯情報システムの、文字情報のみでわかりにくかった「施設紹介」を、地図・写真などを組み入れ、より効果的・効率的な情報提供の実現に向けて「社会教育施設紹介」を様々なメディアによって情報提供するために、視聴覚教育メディア開発を行うこととした。

生涯学習社会の定義にもあるように、「人々が、生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会」において、住民のニーズに応えるために、川崎市内の施設（社会教育施設等）をスライドやビデオテープにおさめ施設情報として提供する。また、平成8年度ソフトウェア開発委員会で開発したマルチメディア教材（CD-ROM）「まちなかの鑑賞教材」の内容を再構築し、「川崎の社会教育施設紹介のマルチメディアソフト」として提供する。

## II 研究の内容

### 1. 開発教材制作の内容

44ヶ所の施設を各施設ごとに、スライド撮影・ビデオテープ（特に、コンピュータに映像を取り込む事を目的としたので、主にデジタルビデオカメラで撮影）に収録した。

マルチメディアソフト（CD-ROM）は、将来的に内容も変更可能なホームページ閲覧ソフトで作成した。

川崎の地図上から、希望の施設をクリック表示し、施設情報では所在地・地図・概要と施設の外觀の静止画、つづいて各階毎のフロアの配置図から会場の大きさ・使用用途・各室の静止画を表示する。事業情報では、各施設が実施している事業毎に、目的・内容・学習の様子を静止画で表している。

最終的な完成品としては、CD-ROM・スライド集・VHSビデオテープの3種類を制作することとした。

作品の内容は、大きく分けて、施設(会場)の紹介(表1)・各施設で行っている事業内容の紹介(表2)とした。

表1

川崎の社会教育施設等一覧 (平成10年3月31日現在)

Nb.	種別	施設名	Nb.	種別	施設名
1	教育文化会館・市・民・館	教育文化会館	20	ス	体育館
2		プラザ大師	21	ポ	幸スポーツセンター
3		(教育文化会館大師分館)	22	1	石川記念武道館
4		プラザ田島	23	ツ	とどろきアリーナ
5		(教育文化会館田島分館)	24	施	高津スポーツセンター
6		幸 市民館	25	設	麻生スポーツセンター
7		中原市民館	26	青	青少年創作センター
8		高津市民館	27	少	青少年の家
9		プラザ橘	28	年	黒川青少年理科活動センター
10		(高津市民館橘分館)	29	施	八ヶ岳少年自然の家
11		宮前市民館	30	博	青少年科学館
12		宮前市民館菅生分館	31	物	日本民家園
13	(2) 川崎図書館	川崎図書館	32	館	市民ミュージアム
14		プラザ大師	33	・	大山街道ふるさと館
15		(川崎図書館大師分館)	37	美	仮称岡本太郎美術館
16		プラザ田島	39	視	視聴覚センター
17		(川崎図書館田島分館)	40	聴	ふれあい館
18		幸 図書館	41	覚	生涯学習振興事業団 総務室
19		中原図書館	42	の	〃
20		高津図書館	43	〃	〃
21		プラザ橘	44	施	学習情報室(川崎分室)
22		(高津図書館橘分館)		設	〃
23		宮前図書館			青少年活動事業室
24		多摩図書館			(河原町分室)
25		麻生図書館			

2. 活用

利用対象として学校教育では、小学校4年生の社会科学習「わたしたちの住む川崎市」の単元で、施設見学の事前学習に利用でき、市民には、学習の場としての情報、学習機会(どんな学級・講座が行われているか)の情報として利用し事前に知ることが可能となる。

教材を活用することによって、身近な地域素材の教材で地域を見直すことができる。地域教材の開発は、学校教育・社会教育の両方の分野で共通活用できるとともに、地域に根ざした視聴覚教育の観点からも有意義であると考えられる。

川崎の社会教育施設・事業紹介

川崎の社会教育施設

川崎の社会教育事業

KAWASAKI CITY



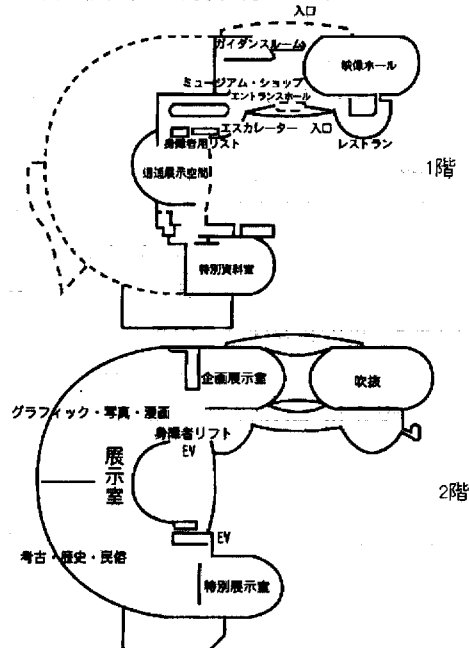
市民ミュージアム

〒211-0052 川崎市中原區等々力1-2  
電話 754-4500



施設の平面図

平面図の青文字部分をクリックすると写真が見られます。



## 川崎の社会教育事業

(平成10年3月31日現在)

<p>市民館・教育文化会館</p> <p>現代的・普遍的課題学習 平和・人権尊重学級 女性学級 環境実践セミナー</p> <p>社会参加支援学習 識字学級 社会人学級 障害者青年教室 市民館保育活動</p> <p>ライフステージ学習 ニューカップルセミナー 乳幼児学級 家庭教育学級 委託家庭教育学級 少年仲間づくり 青年教室 高齢者準備セミナー 高齢者教室 子育て交流集会 生涯学習交流集会</p> <p>生活・文化学習 成人学校</p> <p>ボランティア学習 日本語ボランティア研修 保育ボランティア研修 ボランティア講座</p> <p>まちづくり学習 地域セミナー 自主事業</p> <p>自主学習活動等支援 PTA指導者研修 委託成人学級</p> <p>その他 16mm映写機操作技術講習会</p>	<p>図書館</p> <p>奉仕活動 登録 貸出 返却 予約・リクエスト 図書館システム</p> <p>相談サービス 自動車文庫 障害者サービス 対面朗読 障害者向け図書 郵送貸出</p> <p>図書館普及活動 児童サービス おはなし会 大型おはなし会</p>	<p>博物館・美術館</p> <p>市民ミュージアム 企画展 常設展 企画上映・ビデオライブラリー イベント 教育普及活動 作品収集活動 調査研究活動</p> <p>大山街道ふるさと館 文化講演会 展示事業</p> <p>日本民家園 年中行事展示 体験学習講座 日本民家園まつり 民家の床上公開</p> <p>青少年科学館 プラネタリウム投影 天文系事業 自然系事業 展示事業</p> <p>仮称岡本太郎美術館</p>
<p>スポーツ施設</p> <p>スポーツデーの開催 トレーニング室の一般開放 体育の日記念事業 生涯スポーツ推進事業 スポーツサウナの一般開放 石川記念武道館 武道教室 暑中げいこ・寒げいこ 武道演武会 武道練習</p>	<p>青少年教育施設</p> <p>青少年の家 コーディネーター養成研修 青年教室 少年仲間づくり 青少年の家フェスタ</p> <p>青少年創作センター 小・中学生創作教室 一般成人創作教室 一日創作体験デー 施設開放日</p> <p>黒川青少年野外活動センター 子ども野外活動教室 利用団体指導者研修会 くろかわ自然教室 黒川ふれあい教室</p> <p>八ヶ岳少年自然の家 ジュニアリーダー研修会 自然教室 八ヶ岳森の探偵団 親子スキー教室</p> <p>青少年教育施設連携事業</p>	<p>その他の社会教育施設</p> <p>視聴覚センター 視聴覚機材・教材貸出 視聴覚教育メディア研修 ビデオ編集機操作技術講習会 ビデオコンクール</p> <p>生涯学習振興事業団 かわさき市民アカデミー 青少年対象活動 生涯学習情報 文化学習活動</p> <p>ふれあい館 人権尊重学級 家庭教育学級 ハンゲル基礎講座 民族文化講座 成人学級 識字学級 社会教育研究集会 啓発活動</p>

## IV 研究のまとめと課題

教育メディア利用の推進体制の在り方では、<sup>2)</sup>「映像を利用する教育メディアは、乳幼児期から映像に親しんで育った児童・生徒を対象とする学校教育において、また、様々な年齢、経歴の人々を対象とする社会教育において、人々が学習に取り組む場合に必要となる多様な教材等を提供することにより、学習者の様々な学習ニーズへの対応を可能にし、学習効果の向上を図る上で、きわめて有効である。」

しかし、今までの活字による情報提供は行政側の一方通行的な色彩が強く、双方向性の情報提供が望まれる。

本研究会議では、従来の視聴覚教育メディアソフト以外にマルチメディアソフトの開発を行ったが、CD-ROMというパッケージソフトで、そのソフトを利用できる社会教育施設は、残念ながら現在のところない。また、今後新たな情報、今回表示しなかった会場使用料金、利用時間、現在・これから実施される学級・講座など事業情報は、書き換えが不可能なパッケージソフトにはそぐわない。

今後は、すでに開設されている川崎市のホームページ、近く開設予定の川崎市総合教育センターのホームページ上に、このソフトを有効活用できるよう、より発展した社会教育施設情報提供をめざしたい。

### 1. 学習情報提供の課題と展望

これからの学習情報提供の課題は、

- (1) 「川崎市民意識実態調査」の2位である「学習情報の提供や相談窓口の拡充」から情報提供のマルチメディア化。特にインターネットによる情報提供の充実。
  - (2) 情報活用能力を身につけるための研修機会の充実。
  - (3) 学習相談事業の充実。
  - (4) 広域的な情報収集のために、様々なところにアンテナを張りめぐらせ、学習情報の可能な限りの収集を図る。
  - (5) 広域的な連携の促進のために、生涯学習振興事業団、市長部局所管の施設、大学等高等教育機関、民間企業等との積極的な連携協力を進め、学習情報の相互利用及び人材の交流等を図る。
  - (6) 学習成果を生かす場と人についての情報の提供を図る。
- 以上の整備充実を進めることが望まれる。

生涯学習は、人々が生涯に及ぶ学習意欲を持続し、学習の方法を身につけ、学習の手段を獲得することによって成立する。学習ニーズに応えることのできる仕組みや

制度を用意することが、生涯学習社会の実現に向け重要になっている。そのような意味においても、学習情報提供の役割は、今後ますます増大する。

学習情報が学習者にとって有効に利用されるためには、情報検索が容易にできるようにしなければならない。さらに情報の更新・補完が恒常的に行える体制を作ることが必要である。学習者にとっては学習機会に関する新鮮な情報が必要であることはいままでもないが、学習機会に関する研究や企画のための資料としては過去の学習機会に関する情報が役立つこともあり、更新と蓄積の両方が必要になる。

### おわりに

撮影に際して、事業の忙しいなか、対応してくださった各社会教育施設の職員の方々、また、会場使用・学級講座の学習の場にかがっても快く撮影許可・ご協力くださった市民の皆様にご感謝申し上げます。

#### ・参考文献・資料

山本恒夫他 『学習情報提供と活用』 実務出版社  
昭和62年

群馬県生涯学習センター 「生涯学習のてびきⅡ」  
昭和63年

生涯学習審議会社会教育分科審議会教育メディア部会  
「新しい教育メディアを活用した視聴覚教育の展開について」(報告)  
平成4年3月

川崎市 「川崎市民意識実態調査報告書」 平成7年

#### ・指導助言者

生涯学習振興事業団学習情報室長 志摩 良人  
(株)アクティブ・ブレインズ・トラスト 黒神 謙治  
(株)アクティブ・ブレインズ・トラスト 山下 直子  
玉川中学校 教諭 大串 一彦  
(前 総合教育センター研修指導主事)

<sup>2)</sup>『時代の変化に対応した地域における教育メディア利用の推進体制の在り方について』生涯学習審議会社会教育分科審議会教育メディア部会報告 平成7年8月